

### ■第3回 100人アンケート

- ・回答者数 80名
- ・性別 女性 53名(66.2%)、男性 27人(33.8%)
- ・年代 20歳代 2名(2.5%)、30歳代 3名(3.8%)、40歳代 8名(10.0%)、50歳代 16名(20.0%)、60歳代 18名(22.5%)、70歳以上 33名(41.2%)

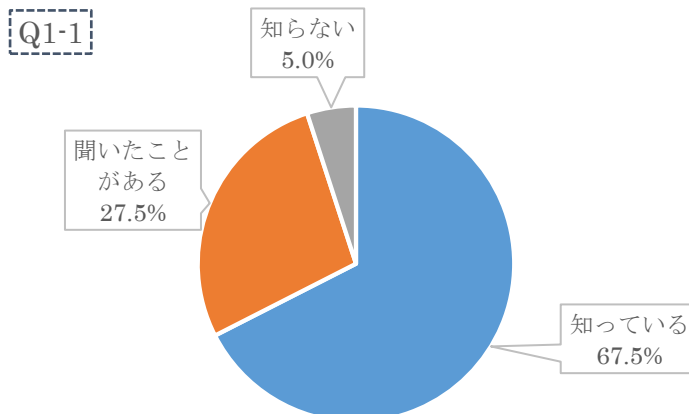
#### Q1. レジ袋について伺います。

環境省が平成30年8月に公表した「プラスチックを取り巻く国内外の状況」(<http://www.env.go.jp/council/03recycle/y0312-01/y031201-2r3.pdf>)の「各国の使い捨てプラスチック対策の動向」(別紙)を見ると、多くの国がレジ袋の有料化・課税、製造・販売・使用の禁止等の対策が取られています。

Q1-1. 日本はプラスチックごみを削減するために、レジ袋の有料化を2020年4月にスタートする予定ですが、ご存知ですか？

(n = 80)

項目	数	%
知っている	54	67.5
聞いたことがある	22	27.5
知らない	4	5.0
無記入	0	0

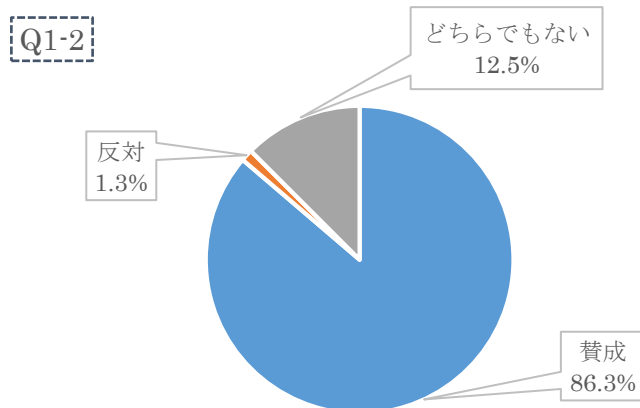


「知っている」と「聞いたことがある」を合わせると 95%になります。消費者の関心が高いことがわかります。

Q1-2. あなたは、レジ袋の有料化をどう思いますか？

(n = 80)

項目	数	%
賛成	69	86.3
反対	1	1.3
どちらでもない	10	12.5
無記入	0	0

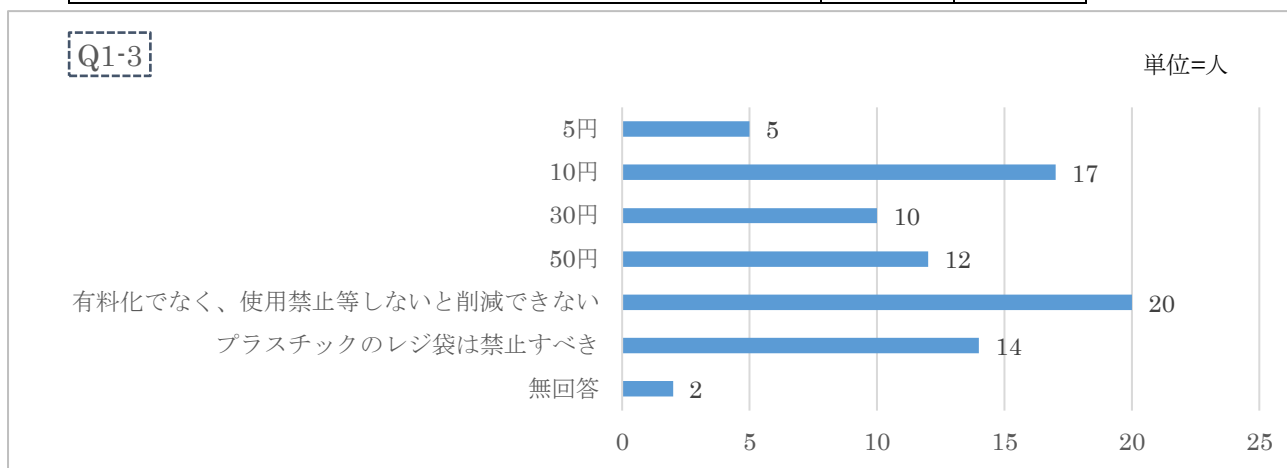


86%以上の方がレジ袋の有料化に「賛成」と回答しています。

Q1-3. レジ袋 1 枚いくらにしたら、レジ袋を削減できると思いますか？

(n=80)

項目	数	%
5 円	5	6.3
10 円	17	21.3
30 円	10	12.5
50 円	12	15.0
有料化でなく、使用禁止等しないと削減できない	20	25.0
プラスチックのレジ袋は禁止すべき	14	17.5
無回答	2	2.5



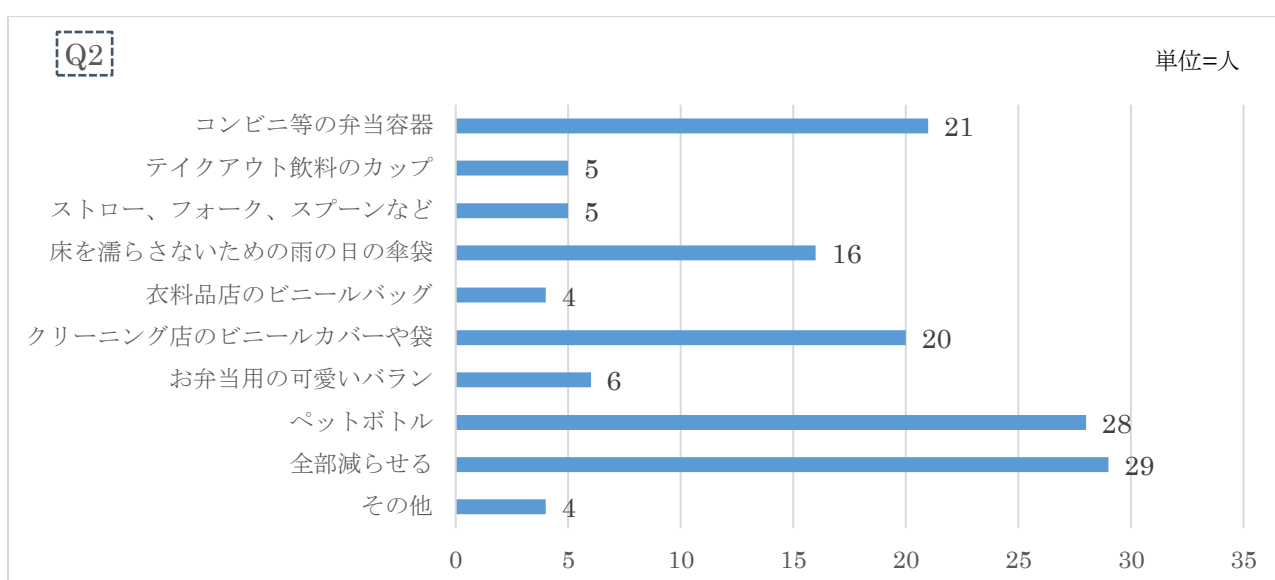
レジ袋の有料化は2020年7月にスタートします。意見は分かれますが、25%の人が「有料化でなく、使用禁止等しないと削減できない」を選び、約18%の人が「プラスチックのレジ袋は禁止すべき」と回答しています。合わせると4割強の人がレジ袋の使用を禁止しないと削減はできないと考えています。しかし、消費者の期待を裏切り、環境省と経済産業省は、厚いレジ袋(0.05 ミリ以上)とバイオ

マス素材の配合率が25%以上、海洋分解性プラスチックの配合率が100%のものは対象外にするとの指針をまとめました。

さらに、有料化の対象は、商品の販売に際して商品を持ち運ぶために用いるプラスチック製買物袋で、中身が景品・賞品・試供品やクリーニングの袋などは対象外です。ガイドラインを見ると抜け穴がいくつもあります。ご興味のある方は、下記アドレスの『令和元年12月「プラスチック製買物袋有料化実施ガイドライン」(経済産業省、環境省)』をご覧ください。

<https://www.meti.go.jp/press/2019/12/20191227003/20191227003-2.pdf>

## Q2. ご自分の生活の中で減らせないとと思われるプラスチックはどのようなものがありますか？



ご自分の生活の中で減らせないとと思われるプラスチックを聞いたところ、29人(約36%)が「全部減らせる」と回答しています。品別にみると、1位が「ペットボトル」、2位が「コンビニ等のお弁当容器」、3位が「クリーニング店のビニールカバーや袋」と続きます。

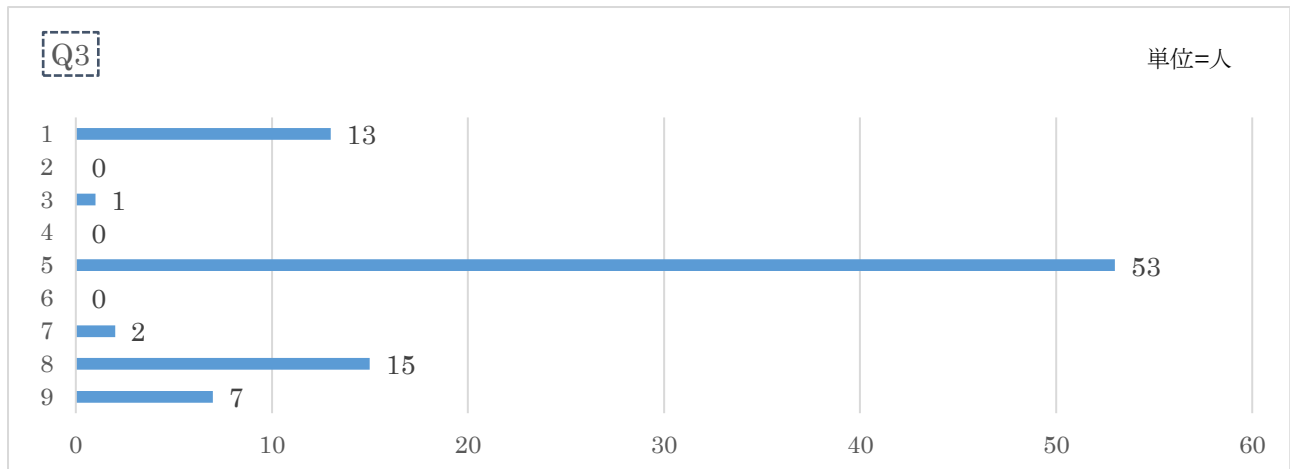
ペットボトルが減らせないのは、街中でマイボトル等に給水や給茶などができないためだと思われます。清涼飲料水のメーカーや自治体への強い働きかけが重要だと考えます。

クリーニング店にマイバッグを持参する人は多数います。クリーニング済み衣類のビニールカバーは断る、又は有料化するなど私たちの意識を変える必要を感じます。世の中を動かすためにも、自分たちの意見を公表していきましょう。

## Q3. 9月20日、163カ国・地域で若者が中心となり、気候危機への対策を求める世界一斉デモが行われました。日本では「グローバル気候マーチ」と題し、東京、大阪など各地でたくさんの人が参加しました。あなたは、このような活動をどう考えますか？

「若者は学校で勉強していればよい」「このような活動をして何もし変わらない」「若者は就職すると

考えが変わるので期待できない」など、若者の活動に否定的な回答をした人はいませんでした。圧倒的 1 位は、「自分が直接参加できなくても、若者を支援したい」でした。若者への期待がとても大きいことが分かります。若者と一緒に活動に参加したり、もっと若者が外に出て発言できるような環境づくりが大切です。私たち大人の役割の一つではないでしょうか。



【項目の内容】

1. 若者と一緒に参加したい
2. 若者は学校で勉強していればよい
3. 若者にお任せする
4. このような活動をして何事も変わらない
5. 自分が直接参加できなくても、若者を支援したい
6. 若者は就職すると考えが変わるので期待できない
7. 大人が解決しなくてはならないことに子どもを巻き込むのは良くない
8. もっと多くの若者に参加して欲しい
9. その他( )

以上